

鶏舎へのHPAIウイルスの侵入を断つ！！

- 昨年12月に管内で高病原性鳥インフルエンザが発生し、感染のリスクが非常に高く、消毒等の発生予防対策が重要です。
- 特に携帯用噴霧器を用いた消毒は、車両消毒(タイヤ周囲・マット)や足元の消毒など利便性が高く、積極的に活用し、鶏舎へのウイルス侵入防止に努めてください。
- 消毒薬は一般的に、温度が低くなると効力が弱まります。冬季は夏季よりも濃度を濃くして使用してください。
- **パコマは冬季(低温)では高濃度(有効希釈倍率50倍)の使用でないと効果が認められません。**

各温度におけるパコマの最大有効希釈倍数

水温	5℃	15℃	25℃
希釈倍率	50	100	800
水5Lの場合	100mL	50mL	6.3mL

出典: 迫田義博ら、鳥インフルエンザに対する消毒薬の効果



予防対策

- ① 衛生管理区域に立ち入る人・車両等の消毒、区域専用の衣服及び靴の設置
- ② 家きん舎に立ち入る人等の消毒、家きん舎ごとの専用の靴の設置
- ③ 野生動物の侵入防止のためのネット等の設置・点検及び修繕
- ④ 家きん舎周囲、飲水の消毒

死亡羽数が増える等の異状が見られたら、すぐに下記まで連絡して下さい。

京都府南丹家畜保健衛生所TEL：0771-42-3308（夜間・休日も転送機能で連絡可能）